

クラス	TU103	担当教員	亀谷 和史
テーマ	乳幼児の発達を学び、「保育（者）の専門性」を深める		
著書・論文 研究課題等	「乳幼児の発達と保育・教育」（『現代保育論』 宍戸健夫・丹羽孝・亀谷和史編著（かもがわ出版）2006年所収）、『現代保育と子育て支援—保育学入門（第2版）』 亀谷和史編著（八千代出版）2008年、「韓国と日本の少子化問題と子育て支援の課題」（『韓国の保育・幼児教育と子育て支援の動向と課題』 共著（新読書者）2008年 p.p.189～209）など。		
ゼミナール概要			
キーワード： 乳幼児期、発達、保育実践、保育（者）の専門性、幼保一元化（「幼保一体化」）、			
<p>[目的、内容、等]：</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎このゼミでは、乳幼児の発達過程に関して、まず詳しく学びます。そして、そのうえで、「保育（者）の専門性」に関して深めていきます。 ○まず第1に、テーマに掲げたように、このゼミでは、特に、乳幼児期の認知・感情・人格等の発達の学習をします。特に、自我の発達や愛着形成（あるいは愛着障害）などを学びます。 <ul style="list-style-type: none"> ・まず、誕生からおよそ、3歳までの発達のプロセスを、感情、認識、自我などに、焦点をあてて、学習していきます。要するに、「赤ちゃん」の発達を専門的に深めていきます。 ・次に、幼児期は、3歳児・4歳児・5歳児と年齢別に、自我や認識の発達過程、その特徴を理解し、発達の視点から保育実践の課題についても学習します。 ・以上の乳幼児期の発達を踏まえたうえで、「保育（者）の専門性」とは何か、について研究していきます。 *私は、アンリ・ワロンというフランスの発達心理学者(精神医学者でもあった有名な学者)を研究しています。ワロンという人は、ボウルビーが「愛着」の重要性を指摘する前から、乳幼児期の「情動交流」や「共感」関係の重要性を発達の最初の段階として研究した人です。ゼミでは、ワロンの発達論の学習もします。 ○第2に、2012年8月、子ども・子育て支援法が成立し、保育・幼児教育の制度「改革」が社会保障全体の改革のなかで提起されています。公的な保育所の設備や条件が充実していないと、良い保育が行えません。そこで、今、課題となっている「認定こども園」や「幼保一体化」の政策に関しても学習していきます。 <ul style="list-style-type: none"> ・待機児童をはじめ、さまざまな「保育問題」も取り上げて、皆さんと考えていきたいです。 <p>[方法等、ゼミの進め方、等]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ゼミでは、毎回、あらかじめスケジュールを決めて、グループあるいは個人で、順番に指定文献（テキスト）を精読し、さらに独自に学んだり調べたりした内容を加えて、要旨をまとめ、プレゼンテーション（発表）します。担当教員が、ミニ・レクチャーを行う場合もあります。 ○後半では、グループあるいは自分自身のテーマや課題を決めて、発表します。そして卒業研究の準備に向けて取り組みます。 ○乳幼児の発達に関心のある人、学ぶ意欲とやる気のある人は、歓迎です。しっかりと、志望動機（エントリーシート）を書いてください。 ○認定こども園や夜間保育園、子育て支援センターにテーマを定めて調査研究や見学も予定しています。 ○年度初めに新歓ゼミ合宿、夏休みにゼミ合宿を予定しています。（今から合宿代貯めておいてください。）（*ちなみに2012年度は、夏合宿と、子育て支援センター、認定こども園、夜間保育所の3か所、見学・調査に行きました。） ○3年生の後期からそろそろ、本格的には4年生になって、卒業研究に取り組みます。個人でテーマを決めて、専門演習Ⅱ論文（＝卒業論文）として執筆します。（*2011年度のゼミでは、3年生と4年生合同の卒業研究発表会を行いました。2012年度も予定しています。） ○4年生の専門演習Ⅱでは、全員、卒業研究が完成するように頑張ります。後輩のゼミ生に発表会をします。可能であれば、製本して学習成果を残します。 ○みんなで、有意義で楽しいゼミをつくっていきましょう（^!^）！ 			
使用テキスト			
小西行郎・遠藤利彦[編]『赤ちゃん学を学ぶ人のために』（世界思想社）2010年 勅使千鶴・東内瑠里子・亀谷和史編著『知的な育ちを形成する保育実践』（仮）（新読書社）2013年 など。			
担当教員からのメッセージ ↑上にいっしょに書きました↑			